



はなのき

神坂小学校だより No.9 2024.11.22



「失敗」は「成功」までの成長の過程

校長 伊藤 博章

先日、全国連合小学校長会研究総会に出席するために徳島県に行ってきました。その中で講演会があり、松坂孝紀さんのお話を聞いてきました。この方は、徳島県神山町に新設された「神山まるごと高等専門学校」の事務局長です。この学校を新設するにあたり、神山町を選んだ理由は、この町は「人と異なる選択」を応援する風土があり、新しさが生まれる町だからだそうです。子供たちのために、社会のために、未来のためにという熱い思いが伝わってくるお話でした。

今回のお話の中で、印象に残ったのは次の言葉でした。

- ・求める学生像は、「学び続けていく力と学習力がある」子供
「考えることが楽しい」と言える子供
- ・応援のスタンスは、学生を大人として信じ、「やりたい」を全力で応援する。
その時に大切にしたいのは、「目的と理念」を明確にさせること
- ・「学生（子供）には考えやアイデアが無い」「失敗から立ち直るには困難」という決めつけから、失敗をさせないために、指導・支援という名の先回りをしてしまい、「行き過ぎた支援」をしてはいないか。私たちの「常識」で、子供の可能性を決めていないか？
- ・「固定観念」には2種類ある。

└	できない理由「〇〇だから無理！」
└	できる理由「どうしたら〇〇？」
- ・本校の目指すビジョンは「β Mentality」
→失敗を恐れる必要は私たちの学校にはない。すべては成功までの挑戦の過程だからだ。欠点のない完成形を最初から求めるのではなく、未完成のβ版を次から次へとつくりだし、あらゆる角度から検証し、想像以上によくしていくその姿勢こそが私たちのめざすVisionである。

その中でも特に、3つめの「決めつけから『行き過ぎた支援』をしてはいないか。」という言葉が印象深く、これからの教育の中で「たくましい子」を育てるために考えなければいけないと強く思いました。

さて、11月9日に神坂小学校文化祭を実施しました。100人を超えるたくさんの方々にご参観いただき、ありがとうございました。たくさん拍手を受けての子供たちの笑顔がとても印象的で、これまでの行事と同様に「成功体験」を増やすことができた実感できる時間でした。

各学年の発表は、その持ち味を最大限に生かしていました。参観者が自然と笑顔になる発表ばかりで、当日までいろんな場所でたくさん練習したであろうことが伝わってきました。全員がしっかり顔をあげて堂々と合唱や演奏をしたり朗読したりする姿に、神坂の子の誇りが育っていると感じました。

中でも6年生の「校歌メドレー」は、その世界観にぐっと引き込まれるステキなメドレーでした。私は初めて聴くものでしたが、保護者や地域の方々にはきっと懐かしく思い、一緒に口ずさんだのではないのでしょうか。令和8年度の統合を前に、ふるさとを知り大切に思うことができる素晴らしい発表でした。

努力の積み重ねの大切さとやりきったという満足感を通して、仲間を認め、自分に自信をもつことができた文化祭となりました。

